

第 1 次木津川市総合計画中間案住民説明会開催結果要旨

会 議 名	第 1 次木津川市総合計画中間案住民説明会（1 回目）		
日 時	平成 20 年 11 月 15 日(土) 午後 2 時から午後 3 時 20 分まで	場 所	木津中央交流会館 多目的ホール
出 席 者	行 政 参 加 者	河井市長、今井副市長、久保教育長、川西総務部長	
	事 務 局	田中市長公室長、大西学研企画課長、坂元企画政策係長、 中島主任	
	庶 務 (事 務 局)	企画政策係：野田主任、西村主任 情報推進係：熊木係長、速見主任、比志島主任 企業立地推進室：滋井室長、永澤主任	
	ワ ー キ ン グ	(株)地域計画建築研究所 松本	
参 加 者	36 名		
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 市長あいさつ 3. 市長説明 4. 質疑応答 5. 閉会 		
開 催 結 果 要 旨	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 司会より、開会を宣言した。 2. 市長あいさつ 市長より、説明会の開催にあたり、あいさつがあった。 3. 市長説明 市長より、プロジェクターを用いて第 1 次木津川市総合計画中間案について、説明があった。 4. 質疑応答 主な意見・質疑等は次のとおり。（○…質疑・意見、▶ …質疑に対する返答） ○成果指標の目標数値が低い。医療サービスに関する満足度等についても、現状 27.3%となっているものを、5 年後にわずか 5%高めるだけになっている。 また、観光振興を重視されているが、市内に受け皿となる宿泊施設がない状況で、どのように対応するのか。日帰り観光では地域振興への寄与が限定的であり、宿泊施設の充実や、特産品の普及・開発に取り組むべきである。 ▶ 数値目標については、担当課の意見も踏まえ、実現可能な数値を示している。高い目標を掲げることはできても、実現性のないものでは意味がない。 本市における観光客の現状は、加茂・山城地域を中心に、ハイキングやサイクリングによる日帰り観光が多くなっている。 9 月の機構改革により、「観光商工課」を設け、平成 22 年に開催される平城遷都 1300 年祭に向けて、府内でも京都市に次いで 2 番目に多い市内の文化財を、どのように観光へつなげていくか、近隣市町との連携も図りながら、検討を本格化させる。 また、検討の過程においては、市民や様々な分野で活躍されている方の意見を、広く聴いていく。（市長） 		

▶ 宿泊施設については、木津地域にはないが、加茂地域の「加茂山の家」や、山城地域の「山城町森林公園」など、合併により市内には存在している。（事務局）
○そのような宿泊施設では、一般旅行者には不十分である。今後、「私のしごと館」の活用なども含め、総合的かつ積極的に観光施策をすすめてほしい。

○木津駅を下りても、食堂やレストランなどが無い。観光を推進するのであれば、木津駅前土地区画整理事業などでも、そのような施設の充実を図っていく必要がある。

また、このような市民の意見を活かしていく仕組みとして、精華町で実施している「市民の声」のような取り組みが必要である。

▶ 木津駅前の飲食店の現状については、十分ではないと認識している。しかしながら、地権者の方の意向もあり、行政がそのような施設を設置することは難しい。機会を見て、ご意見を伝えていく。

市民の皆様の声を聴く機会としては、市ホームページに「市長へのメール」を設け、直接意見を聴く機会を設けている。ただ、インターネットをご利用いただけない方もあり、今後、ご意見を参考に充実させていく。（市長）

▶ そのような認識から、中間案概要版9ページに「市民の声を市政に活かす仕組みの充実」を明記しており、今後、総合計画の方針に沿って充実を検討していく。（事務局）

○成果指標について、平成19年の現状数値のみが記載されているが、これまでの経過も掲載しないと、目標数値が妥当なものかどうか判断できない。

▶ 掲載方法については、工夫するが、まずは、目標数値を掲げることが重要であると考えている。また、実現に向けた取り組みについて、試行的に執行目標を立て、事業評価を実施し、評価のルールづくりに取り組んでいる。

目標数値については、しっかりと確認していく。（事務局）

→資料編として、成果指標のこれまでの推移を掲載する方向で検討する。

○市民参画について、市民からの提案を取り上げるためのプロセスを、しっかりかたちにする必要がある。

窓口となる課を設け、提案にかかる関係課を一堂に集めて、提案者から直接意見を聴くなど、提案をかたちにしていく仕組みを考えて欲しい。

また、京田辺市や精華町など、隣接した団体との連携を具体的に示してほしい。

▶ 中間案概要版9ページに記載している、「市民と行政のパートナーシップの推進」の方針に沿って、具体の仕組みづくりをすすめます。

また、中間案の本編では、市民と協働で取り組む施策の例として、山城茶問屋街や船屋通など、伝統的な街並みの保全と活用の方策について、協働で検討していくこととしています。

隣接市町村との連携については、学研都市の建設では京田辺市や精華町と行政連絡会を組織し、府とも連携しながら進めている。

また、消防や衛生の分野では、広域事務組合を設立し、郡内共同で実施している。

しかしながら、企業誘致の分野などでは、近隣市町村といえどもライバルであり、連携によりメリットがある分野については、今後も積極的にすすめていきたい。（事務局）

○市民参画や協働は、文章にするときれいであるが、かたちになるようにしっかりと取り組んでいただきたい。

	<p>○市民との協働は重要であるが、市の財政難を補うため、行政のしごとを市民に「おんぶに抱っこ」になるようでは困る。協働による成果を、市民と行政が分かち合える仕組みづくりが必要である。例えば、NPOの活動を市がその広報媒体を利用してアピールするなど。</p> <p>また、先ほど、市民の声を聴くため、「市長へのメール」を受け付け、寄せられた意見等については、市の考え方を返答していると説明があったが、私の投稿には返答がない。</p> <p>意見のとおり実施できないにしても、そのことについて理由を示すべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 現在実施している市民協働の例としては、アダプトプログラムがある。行政が、公園等の美化活動に必要な備品を提供し、里親が管理している。 <p>里山再生や観光、荒廃農地の解消などは、行政主導では押し付けになる危険もあり、地域住民が強い活力を持って取り組む中で、行政がお手伝いする形態が長続きすると考えている。</p> <p>平城遷都1300年祭を足がかりに、観光分野などで市民協働を進めていく。(市長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 基本的に、「市長へのメール」には必ず返答している。持ち帰り確認する。(事務局) <p>→担当課へ確認を指示。</p> <p>○住民の高齢化が伸展する中、インターネットの活用だけでなく、文章等での意見受付が必要であり、担当窓口を設置していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 意見を受け、方法を含め前向きに検討していく。(市長) <p>○基本方針にも重点戦略にも、「文化の創造」が明記されている。木津川市は、文化施設には恵まれていると思うが、ソフト事業が不足しているように思う。今後、行政として市民の文化活動を積極的に支援し、レベルアップに取り組むべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 本年度、木津川市文化協会が発足した。今後、同協会を含めて、全市的な文化活動を成熟させる取組みをすすめ、市民の一体感の醸成にも繋げて行きたい。(教育長) <p>5. 閉会</p> <p style="text-align: right;">以 上。</p>
<p>そ の 他 特 記 事 項</p>	<p>特になし。</p>